無病長生之法

并天壽補元丹來由

印能書

此御系七妙三法あり申

大阪心齋橋南三丁目角　吉文字屋延壽堂製

イ 13
935

イ 133
935
巻 935

無病長生養生之法

并天壽補元丹来由

功能書

此御藥七妙三德あり

貝原先生養生訓四之巻廿ノ丁目大要

貝原翁ハ筑前候の儒官篤實の君子なり壽百余歳を保ツ

素門ハ腎を五臟のおとゝなりとゝ書生の元精を書ふゝを
重んじべし若し射を血氣方ゝ壯んなり戒しむ有色と
聖人乃戒謹守べし強ゝ虛弱の人ゝ中年以後い
色欲を慎ゝ腎虛しゝ病を生ぜ命を

東洲田山下之町
道具屋吉兵衛

色欲を強く勘堪ぶかく却てヌ病となる房事い屢紛
も精を洩すべくば七度迄一度精気のりをを使とも精をいくの
おくるべくば元気おとろへ人も気血枯て大ぬ補益とも
平生志を遂楽むにより心気悦活ヌして行の病ら生せ
ん事色情欲を不禁して腎を保ひの良法長寿を
得るの術なり
後世此書生れ術を評して神仙の人ヌあるべば
幼ひ雖しヌどくいつ醫師ら如何にも此くもうを
猶せざるを今の人幼ひ年安合しく精乃洩
しとなる忠堪ゆるべ下部ヌ気滞して病氏生
ど況や世間ヌあ紛薬ヌごゆく洩んとする精を
強て外ろう止むるべば滞して下痢毒の一生病

如器ぶべし曜るべし忠堪を紛る時を心腎黒固ヌなる色情妄ヌ
動ひるを接ても我気乃おくく精を保ひ腎黒固ヌ底易
一七日更ひく試べ其功増的ヌ知る中年以
後ヌも壮年ヌ人にも虚弱の人も平生此薬と
更ひ心の侵ヌ此書生乃法紛いをく楽病ヌく
ヌ病黒固にし毒天年を保ひ
一此薬もと腎薬にあらず真陰元陽を大ヌ補ひ自然
と内調ひ腎精を壮ヌるヌ妙也其調合此薬を四ヌを
服るべ平生色欲情源を人も淫念ごろヌ心おこら
ざれ如ら房中に入くも徐く情動を金して精を久し
く持ち腎精壮んヌなる事妙なり

一真陰元陽のうを元人も能初めも深念発して房中より入べ精をやく減き陰茎萎安しさきとも壮年の内より壮んなるふうと再び交接しを多漸く志を遂るも心気かたうして心こゝろに動く有なり如此しを屋く精を減せばをやく裏へ長生不保なりがたし此藥を服もちゆ

一腎精元陽を固め房中み入くをやく心動うして一度交接

真陰元陽のうを元人も能初めも深念発して房中より入べ精をやく減き陰茎萎安しさきとも壮年の内より壮んなるふうと再び交接しを多漸く志を遂るも心気かたうして心こゝろに動く有なり如此しを屋く精を減せばをやく裏へ長生不保なりがたし此藥を服もちゆ

一腎精元陽を固め房中み入くをやく心動うして一度交接

真陰元陽を固めをやく心気固く色情こゝろに動うして藥喰をもしば陽

真陰元陽を固めをやく心気固く色情こゝろに動うして藥喰をもしば陽

ごうもの澄を腹をもたうて酒を平日いつしも陽るうを強く壮んみあり老ゑ十倍もるを知れ

一女の面を見色の動しを聞ても色情動くやうなる人い

多くい陰実ゑ人みのうしたやく書生紙かゝ

一ま人身を脾胃の書をかとも腎気陰固にし多

壮んるきが丹田の火蒸外て脾土ゑ気もゑ壮んよるり脾

を補も腎を補み不如ものうり壮年の精気を秘藏

四十歳以後精気を減さゞ命の根元を中あゝ

唐土に多孫真人本勅にく貝原先生の教授ら

秘訣也則ち何きも百歳の長寿を保しを人なり

此藥気血を大に呼補をる故諸病を用ひても治験速あり就中腎精を
壯ましく下部を温補をるゆへ例て要用の事七ツの妙あり左に記す

天壽補元丹七之妙

一此藥腎精を壯ましをるゆへ他の比もべさ藥なし其強き色欲
深く慎むにも淫意起る人又は精清して精の淡やうなる人を
制服をるとき色情浸み動らぐと房中に入るも徐く情動き
腎精長遠保て玉精淡数性の限りなし
一陽の弱き人此藥を用ひば平生の淫欲の意おこらず
女の事をも忘れて腎精はよく壯なる事妙なり
一小便頻数なる人服潔ゆうゆへ白濁赤き精の淡るゆうゆ
え下焦の病ひ治をるゆへ妙あり

一遺精夢中に女と交合して遺精の病ひ治しても治しかぬるものなり然るに此藥を服用して後に交して
精の淡くなるまで續て服をるとき全く治を見るの症も今
雪用ひ為て日の能書に不遺を知るべし
一勢ぐるいとなる人一ぬり用ひば勢の益るたちまちにく
気力爽やかに心力大に勇壯なるべし
一虚人に長く上へ昇るのぞせ頭痛眩暈を患へ気を
因動気強き此藥一ぬり用ひば降下治をるゆへ妙なり
一積気ある人用ひ為ば妙に治を見るべし
遠ひ温補の功乃妙なるゆを知るべし
右法を用ひば其功非の如きを知るべし
治をるも多しく埋的也日用の益を見るく暦の正しきを

知るおとく右の効驗を仕て諸虚百損を補ひ諸病を治
するの經驗弗のおとく妙なるべし中年已後衰
長病乃後又を虚人多き者に用ひて保養せば天壽を
得るの妙劑なり

三德乃事

一此藥腎精を壮んにする第一の功能にして多脂なるを
陰つよく色欲の急却て落くなるを妙なるより男女
とも不義の志止一生身を過ることなし○第二平
温中和の藥なれば寒よく幸病の業乃用ひ
脂多藥の功を補く獨蔘の人參小児又一角多
べさを功多等し○第三多服しく寒暑を堪る
身にして感冒を疫病を受ざ

天壽補元丹之來由

此藥ハ唐の醫仙壽百余歳を保し孫真人之方也玄宗皇帝
大醫院ゑ令し多為製しめ平常ゑ服用したまひ天子にハ
稀なる長命を保ち老後まで楊貴妃等壮年の妃を愛せさ
せたまふ（此事唐書ゑ書百卷あり其中に詳に記り）其方傳崎陽の西川氏漢人より製藥の
法を傳へより西川氏ハ代々百有余の壽を保ち其子孫九十
歳ゑおよんで氣力勇壮當時現存在方の秘方也精氣を益事
忽にしく如神の聖劑予四十歳の頃より心肝ゑ虚ゑよりく胸
膈否塞し心火亢て上て双耳常ゑ鳴肺金痛悴水今枯渇し
壞症となり百計をれども不治當地及京師有名の良醫と尋診を
乞治を需め百般の藥を服とゑくども治する事不能日々憔悴

枯槁し唯一死を待而已なりしを此方を授けて法の如く千練して調剤し服用をして従前難治の重症霜雪の朝日に向ふが如く悉く消融し既に老年に及ぶとゝ雖も三四十歳の時より氣力十倍し身心共に勇壮にして多鬢髮不枯眼力倍明皮膚光澤を生じ世間流行の風邪疫疾にも感冒せず是もて予を知る人は見聞所也是によりて諸虚百損の人に與へ試に其効驗神の如きを以て普く海内に告弘る事爾り

一凡人はふ天地陰陽充実健運ば何の病乎生矣後に気血不充不和のきゝ滯健運を失ひ種々の病となり百般に変ずるも此藥を服せば悉く不治なるなし如何とるゝに本の根に憐水を灌早く盛長繁茂する如く人の根本元気元陽を補助すると以て腎精壮なる心の猶外強して脾胃を溢溢充肺金渥沢肝木

亢ぶる猶よく調和をるふよう気力勇壮に成○眼目明らかに○心気爽うに○物をもとに○脾胃を調和○食を進○痰嗽を治め○記臆根気をつよし汗を止殺精を補○婦人経行不順○冷瀉赤白帯下下血○小児諸病○其外男女一切虚症を治をるに効ひ誠て其妙を知るべし

功能

一心気を労倦の物やき人経年粥糜く煩ひ出し糜粥根気薄く万に倦怠心弗倦怠るごとく睡卧に長多く肢体怠隨盜汗生疲ざし多不得熟睡驚悸心忡膝の下より汗生物事困倦し健忘口腐冷又い掌煩燥き候補にも嗜欲たゞる對症気癖多の症に速く此藥を用ゆる時は不治とのふるなし

一脾胃虚乏食に味なく脂肉の食も傷に又い粥食しくも羸瘦胸膈痞塞或い痛に腹中時に大便清利多乃症に用ひる

治するゆゑのおもし

一此藥能腹中を調ふるゆゑ神効之元によろく泄瀉を治し秘結を治し泄瀉を脾胃和せば大小便分利せざるふよう清利なり秘結を脾胃調へば運行失度潤ゑきにより結をも脾胃を調ふまば遺不及ゑく二便よきがゆゑ通ずるゆゑなり

一痔下血脱肛を治するゆゑ効なり元気血を温補する故なり

一腎虚ゑへば質虚弱色情勃き安く陽ゆゑ勢弱く精滲安く肌膚光澤ゑく憔悴しゑ目の當煩燥脊寒く小便赤くゑへ白濁髮脱ゑく老數なり壮年人ゑ白髮抑へく積胸塞へさし迫腰痛冷ゑへ痛ゑ疼ざして不得安卧房ゆゑ晝日ゑ気ゑ恍惚となる名の症ゑ男ひて治するゆゑ神のおもし

一婦人の人ゑ男ひて壮んゑなるゆゑ効之喻老人虚人さうとも三ゑ別男ひバ壮年ゑ老ゑくゑなるべし然ども色欲の心い淺くゑるべし陽ゆの勢強くなるとても口ゑ言生の法を用て楽しまが長寿を保ひべし

一痼症を新色まく筋立日つり胸膈痞塞經憲神志不定煩悶怒其余種く奇怪の症をあらゑ都て心腎虚しく必ず失度肝火亢るよう生じ病なり此藥にて治するゆゑ効なり

一積塊の病ある動気強く痛むありさし迫なり攣結あり小腹脇腹或い不食朝い別して胸悶満者に飲食を節食ゆゑして間もなく飢る心ありて猛ゑ力ゑき名の症を治を元い積聚を治する藥ゑあるべきも此藥にて第元を温補するにより運行不滞積聚自然ゑ消化して治するなり世間の積に用ゆる若き藥い皆ゑ虫ゑ毒ゑ藥ゑ全く治するにてゑるきぞ

一痰気を気血不順より生ずる痰あり百般の悩むも都て此薬にて溫補すれば自然の気血明らかにして治を

一脇痛脇暈気逆鬱燥き耳鳴聾耳塩物炙く脇癖額癖脱より繁うして脇癖の痰を降下治するの如し

一歯の痛齲齒の痛頰の痛咽喉の痛舌に細き物生ずい乾燥なる唇の痛都て上に中一切の病此薬にて下部を溫補すれば苦無し治を

一留飲い冷溫周身滯まて清痰となる者に痰飲或い涎沫を吐し胸膈滿嘔嘔吸扶左右へ攣痛頻尿肢腰脊痛目眩眩惑嗜卧其余名の附ざる百般の病とかく用ひて治する事神のごとし

一痰喘喘息を治する神妙なり痰い気血滯て痰となり痰より清痰と変ずるを治せんより此薬を用ひて気血を溫補して痰を生ずる事なし

一肺気虛弱再く感冒し清涕出る人に有効なる風薬を用ひれば風邪も元気に乗じて攻撃するより且い發散するに再く此のごとくなるべし元気次第に虛して弥風邪感冒ますます敬いまざれば人に用ひべし治して後に度く

一風邪感冒こと止事神妙なり

一風邪發表くくまた日旧治せざれば用ひて治する妙あり

一張にて風邪感冒に風癖気雨溫等の邪気に感じ又は疫気に傷て或い疫冷などを受る人用ひて治と雖て水の帯りて抜痛泄瀉する者用ひて神功あり張弓の人い弱て推乃べき薬あり

一寒気に不堪を彼る人に用ひて妙なり

一類中風い此薬にて治を知て中風に用ひて薬にて治を知る出来ず病で治ずる此薬を考て彼用をれがおしでい身挙動

もよくなり全く治療も住して天寿を保ちべし酒肉を好癖
多き人は中年より此薬を毎月一剤づゝ服すれば中風の發作を
一胸痛腹脹腿都て渾身行きの不快くも癖きまい攣急
痛多み夏ひて治もるゆ外のごとく
一撲挽身ゆ酒にて男色一代痛ど舊年なりて痛こと治し
難るも舊疾をもてば治を
一脊凝七九の逸不快肩癖い壮年の人も構い孫ども中気
已後い癖みなる基で此薬月み一剤づ服用をもべ肩不凝
脊痛和らぎ癖をせどれゆるゆ夏ひく治を
一小便遍どるゆ少数のもるゆうに物がゆるみ夏ひく治を
一淋病消渇小便頻数を治もるゆ如なり
○瘀血よりせどる病いをべく此薬にく

治もるゆ欠を治もるを
一疥癬癌い表ゆある瘀血の發もるなり湯にへるゆ不宜みいあ
ざまどる内を治せどく表ゆ治もるをば其既仕
又も内攻武い一旦治して遍ゆ知ゆ孫ども内う塊となり
一両年の内み労症ゆどゝなり死もるも数多く湯にて治
して一生堅固なる人もあまとも実もよく湯気虎害壮
健の人なり元ての人薬を不服用みもあるべきども元い服毒数
を的中薬と心得て服用元い風邪を發散もれ怪き薬み毒
湯気を引建る薬ゆあらざるまゞ其甲斐ゆ此補元好く
溫補をもべ内勇壮みなりあるべけい發出もれ気喜く後
再び不發諸症ゆ衰どるゆ如なり此薬痔の薬にくもあらざるまども
一痔疾を治もるゆ如なり此薬痔の薬にくもあらざるまども

乳血と大に補ふべきの部

治せざるべからざるべし　痔瘻奮年癒ざるべし完痔となる事

藥貼薬などにて一旦癒るも外より治して内を治せざれば

再發る此藥ゆえ内を治するべからず新藥及び此方傳の

灸〻〻此補元丹を服用すべし速く治を此方へ

御出なくば癒て〻〻進じ難し完痔の外い両三日ゑ那功見へる完痔

も藥三剤服用て癒る

一脫肛下血を濕気甲斐なく下部不堅固なる此藥にて

溫補をもとべき事如ゑ治を

一法堂法嚢の濕を癒きゑい婦人陰門の癢を治するゑ如なる

一鼻の内ゑ物のせるる紙鼻痔となる鼻の頭額髮脫落とゑ首の邊の痛い者

下部の冷濕にて發逆上して起る此藥にて下部と溫補を

るゑようなる治をるゑ如なる

一下痛腰毒濕毒結毒風毒其余一切腫物種〻癒治しても

治せざるゑ此藥二剤服用べ効結見へ後て再發るべ全快と知

發ゑ男色をべ早く治〻〻長病となるゑ

一婦人い七日ゑべき經ゑ月ゑ一日二日又い一月二月滯ゑ功結て

大病となる基ぞ血塊とて腹中ゑ塊生後に亀裂ゑ又

い常下にて上衝腰足冷耳鳴血の乏向血赤血陰門の痛腫と

生る者の忘て用いて治を新のごと

○右男女の病ゑ皆濕気不足〻〻毒血水らぐるゑ癌血ゑ如

始へ〻〻の滯ゑ川ゑ出の積るごと次第ゑ凝て膏血と

なりて發る病ゑ起ゑて〻〻い奮日不癒此藥をもて人命

の根かゝる乳其陰元陽を補ひ元気血をくゝめ骨
治せざるなし　婦人上衝に用る腎血を延用ひき
ゞく洗薬などにて歯ゆい治をもとゞめ其間に腎など
せず　舊日治せざるい事の因なり此薬を服せば間の
くもりも及ぶべき妙に治を

一婦人懐妊　〜〜後月と共一剤ゞ男ひて産を安〜〜毒後も
男ひて健早く乳汁多〜〜〜〜むかるなき婦人なり〜〜〜〜と
欲せば一剤服せば不日〜〜て妊娠とるる妙なり

一小児虚弱にて肥立兼る病癖色あ〜〜く食る味なくく食
〜ても痩衰るも男ひて妙なる未香得ざる小児も母親乳を
乳母に欲し〜〜ゞ〜〜　熱毒小児い脳毒あるりのゞ疳癪脳癇
など發るい都て内の湯乳にく張出ゝとなり發出るゞ其い治い

壮健なり乳を給養などにく治るい迅速ゝ　内へ
なりて寒涼剤茶い其ゝのの元気を攻撃勝胃を抜ゝ湯乳
落くなる乳より色〜と痛も養ゞ一期痛とかなり此薬を飲
乳母も欲とゞ乳い乳血脈ゞ乳汁清くなり脳毒も決薬
〜て母なるもも壮健なるり

一女子い別〜〜　淫欲の心落々ゞ不貞のるゞをなさゞ此薬の徳い
腎乳と壮んにて都て色情なるゞ神妙の霊薬
此證い世間も淫るゞ猥なる人多くい精の漏るくゞ早く男
もゞ種をくゞ色情腎乳不足の人なり腎乳壮んなる人
い猥なる色情動くものもあ〜ゞ

一幼年の時より毎年一剤ゞ男色ゞば壮年にゝり淫欲の心強り
て動ぐるふより礼を犯とるなく性女を害ゞ自然に下痢遺

の患と免れまと妻を求る時多くは腎気大に盛ふしてそのまことを生ずる
今早く試み子孫長久の基なり
一右の余一切虚弱の人に用ひく諸般の病を治し書服して
頭を光澤を生じ髪を烏羅し牙歯を堅くし眼目を
明らかにし記憶強記し寒暑を堪忍事に関係せざる
延年長寿の神丹也

延壽堂鳥飼唐齋製之

大坂心齋橋南江三丁目東南角

本家調合所　土日文字屋源十郎

壹劑藥目百三十五文　半劑目六十七文　小半劑同三十二文　余准之

藥料壹劑　蓋　碗入　代八文　半劑　同上　代四文　小半劑　同　代弐文　試貪　代百銅

早稲田大学図書館
011888007069